

編集委員

今井 淳司	大野 裕	北西 憲二	北村 婦美	齊藤 万比古
下山 晴彦	藤澤 大介	中尾 智博	中村 伸一	西村 馨
林 直樹	平島 奈津子	福山 和女	妙木 浩之	山中 康裕

編集同人

青木 省三	飯森 眞喜雄	伊藤 良子	植木 啓文	大森 健一	加藤 敏
亀口 憲治	北山 修	衣笠 隆幸	久保 千春	久保木 富房	小谷 英文
小林 和	坂口 信貴	坂野 雄二	鈴木 純一	高橋 徹	高江洲 義英
滝川 一廣	瀧口 俊子	田畑 治	中村 敬	植林 理一郎	西村 良二
原田 誠一	平木 典子	弘中 正美	広瀬 徹也	前田 ケイ	松浪 克文
村山 正治	山内 俊雄	山上 敏子	渡辺 久子		(五十音順)

編集室から

かなり以前から神経発達症群（特に ASD）の概念を学び、大人（多くはグレーゾーン）の ASD の人たちに苦勞しながら関わってきた。スーパービジョンで提示される少なからずの事例もこの領域の人たち、あるいは児童とその家族となってきた。事例提供者も私も、その病態をどのように理解し、援助していったらよいのか苦慮していた（今でもそうではあるが）。

臨床場面での現れ方はさまざまである。大人の ASD（多くはグレーゾーン）は多様な症状を示す。当事者が大人の場合、不安（多くは対人不安）、抑うつ、引きこもりなどを呈し、その問題の解決を求めて受診する。その治療が進むにつれて、あるいは当初から ASD の特性を根っこに持つ人だとな理解し、それに基づいて援助、介入をあれこれ工夫するようになった。あるいは配偶者（多くは女性）が家族の問題で受診するが、その当事者が社会的にある程度成功した ASD であることもし

ばしばある。そして多くの場合、子どもたちも不適応状態に陥っており、配偶者の苦悩は倍加する。家族全体という視点から ASD を理解することの重要性は臨床上必須であろう。

ASD に関する DSM-5-TR や ICD-11 の解説を読んでも、どこか物足りない感じは否めなかった。このような症状、特性を持つ人たちは、どのように悩むのか、その家族はその関係の中でどのように苦しんでいるのか、が当然臨床では問われてくる。またコミュニケーションの問題といってもそれが具体的な家族や社会的状況での対人状況でどのように現れてくるのか、明確でない。

ASD の人たちはどのように回復し、変化していくのだろうか。この病態に対する精神療法は未知のことが多い。この特集をお読みいただき、読者の臨床の営みの一助、ヒントとなれば、企画者として望外の喜びである。（K.K.）

精神療法 第52巻第5号（年6回発行）

2026年10月5日発行（通巻276号）

定価2,640円（10%税込）年間購読料19,140円（10%税込／増刊含／送料不要）

購読ご希望の方は電話・葉書にてお申し込み下さい。

全国の書店からも注文できます。

発行所 株式会社 金剛出版

発行人 中村 奈々

〒112-0005 東京都文京区水道1-5-16 升本ビル

Tel. 03-3815-6661 Fax. 03-3818-6848

振替口座 00120-6-34848

e-mail eigyo@kongoshuppan.co.jp

URL <https://www.kongoshuppan.co.jp/>

表紙レイアウト 白井新太郎装釘室／印刷・製本 太平印刷社

【JCOPY】〈出版者著作権管理機構 委託出版物〉 本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088, FAX 03-5244-5089, e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。